

加速器産業参入へ初視察

産学官研 茨城のKEK訪問



治体関係者ら14人が参加し、国際リニアコライダー（ILC）実現を見据えて現場ニーズを確認。県内企業の加速器産業参入に向け、活動を本格開始した。

【東京支社】本県の産学官組織「いわて加速器関連産業研究会」（会長・藤代博之岩手大工学部副学部長）は1日、茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構（KEK）を初視察した。企業や自

県や一関、奥州、北上の各市のほか、通信関連会社や金属製品製造業などのメンバーが参加。ILC測定器の開発状況や求められる技術などについて講義

で学び、先端加速器試験施設（ATF）では



KEK内のILC関連装置を見学し、技術ニーズなどを把握するいわて加速器関連産業研究会のメンバー

研究者から「ILCでプロダクツ（一関市）も装置の制作などの要望に細かく応じてくれる、研究所を支える周辺の会社が必要」と説明を受けた。

質疑応答で、参加者からは運用に必要な通信用や装置のメンテナンスなどに関する具体的な質問や意見が出た。

NECネットワーク

「装置の見学や研究者との意見交換で、全体の理解が進んだ。自分たちの技術をどう生かすかイメージも膨らんだ」と今後を見据えた。同会は6月に発足し、今後は若手エンジニアを対象にした勉強会なども予定する。